

# 第31回 九州肝臓外科研究会

日 時 2009年7月25日(土) 午前9時00分受付開始

場 所 長崎県医師会館  
〒852-8532 長崎市茂里町 3-27 TEL 095-844-1111

---

当番世話人 国立病院機構 長崎医療センター 藤岡ひかる

主 催 九州肝臓外科研究会

## 会場案内図



## 会場へのアクセス

- 路面電車** 大学病院前電停下車 (100円) → 徒歩 5分
- 路線バス** 浜口町、岩川町、竹岩橋下車 → 徒歩 5～10分
- 航空機利用** 長崎方面行き高速リムジンバス乗車 (800円/約50分)  
浦上駅前下車 → 徒歩10分
- JR 利用** 博多発 長崎行き 特急かもめ乗車 (1日24往復)  
→ (約1時間50分) 浦上駅下車 → 徒歩 5分

# お知らせ

---

## 1. 参加受付

参加費 3,500 円を会場受付 (2F ロビー) にてお支払い下さい。

## 2. 座長および演者の先生方へ

- 座長の方は、担当セッション開始 30 分前に次座長席に着席下さい。
- セッション II 以後に発表の先生方は、発表時刻の 30 分前にスライド受けを済ませて下さい。
- 発表時間は、口演 5 分・討論 3 分です。
- 動画を使用される方、Windows Vista、Mac をご使用される方は、トラブル防止のため、PC をご持参下さい。  
会場には、ミニ D-SUB 15 ピンケーブルを用意致します。これ以外の形状の出力端子の場合はアダプタをご自身でご持参ください。
- 上記以外の方は、会場の PC を利用可能です。  
事務局にてご用意致します PC の動作環境は、Windows XP、Power Point 2003 及び 2007 となります。事前に動作環境でご確認の上、データは USB メモリーでご持参下さい。

## 3. 世話人・幹事の方へ

12:05 から、世話人会・幹事会を第 1 中会議室 (2 階) にて行います。

※会場の長崎県医師会館には、駐車場がございません。

※ 12:05 より、大会議室 (3 階) にてランチョンセミナー (昼食付) を開催いたします。

| 長崎県医師会館 2F 講堂           |  |           |         |                         |   |
|-------------------------|--|-----------|---------|-------------------------|---|
| 9:00                    | 受付開始 9:00~   |           |         |                         |   |
| 9:35                    | 開会の挨拶 当番世話人 藤岡ひかる (国立病院機構長崎医療センター) 9:30~9:35   |           |         |                         |   |
| 10:00                   | <b>I 肝臓一般①</b> 9:35~10:55<br>座長：池田 泰治 (福岡市民病院 外科)<br>調 憲 (九州大学大学院 消化器・総合外科)<br>七島 篤志 (長崎大学大学院 腫瘍外科)  |           |         |                         |   |
| 11:00                   | ブレイク   |           |         |                         |   |
| 12:00                   | 特別講演 司会：宮崎 耕治 (佐賀大学医学部 一般・消化器外科) 11:00~12:00<br><b>「Anatomical vs. non-anatomical hepatic resection」</b><br>長崎大学大学院 移植・消化器外科 兼松 隆之   |           |         |                         |   |
| 13:00                   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>2F 第1中会議室</th> <th>3F 大会議室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12:05~13:00<br/>世話人会・幹事会</td> <td>ランチョンセミナー 司会：中尾 一彦 (長崎大学医学部 消化器内科) 12:05~13:00<br/>「肝のMRI：最近の話題から」-脂肪肝から肝細胞癌まで-<br/>福岡大学医学部 放射線医学教室 吉満 研吾</td> </tr> </tbody> </table> | 2F 第1中会議室 | 3F 大会議室 | 12:05~13:00<br>世話人会・幹事会 | ランチョンセミナー 司会：中尾 一彦 (長崎大学医学部 消化器内科) 12:05~13:00<br>「肝のMRI：最近の話題から」-脂肪肝から肝細胞癌まで-<br>福岡大学医学部 放射線医学教室 吉満 研吾 |
| 2F 第1中会議室               | 3F 大会議室  |           |         |                         |   |
| 12:05~13:00<br>世話人会・幹事会 | ランチョンセミナー 司会：中尾 一彦 (長崎大学医学部 消化器内科) 12:05~13:00<br>「肝のMRI：最近の話題から」-脂肪肝から肝細胞癌まで-<br>福岡大学医学部 放射線医学教室 吉満 研吾  |           |         |                         |   |
| 13:05                   | <b>II 小肝細胞癌の診断と治療</b> 13:05~13:37<br>座長：高見 裕子 (国立病院機構九州医療センター・肝臓病センター 肝胆膵外科)   |           |         |                         |   |
| 14:00                   | <b>III 肝細胞癌治療後再発防止策は？</b> 13:37~14:01<br>座長：三好 篤 (佐賀大学医学部 一般・消化器外科)  |           |         |                         |   |
| 14:01                   | <b>IV 肝臓一般②</b> 14:01~14:25<br>座長：上野 真一 (鹿児島大学大学院 腫瘍制御学消化器外科)  |           |         |                         |   |
| 14:25                   | <b>V 肝硬変合併肝細胞癌に対する脾臓摘出、塞栓療法 of 功罪</b> 14:25~14:49<br>座長：緒方 俊郎 (久留米大学医学部 外科)  |           |         |                         |   |
| 15:00                   | ブレイク   |           |         |                         |   |
| 15:00                   | 教育講演 司会：藤岡ひかる (国立病院機構 長崎医療センター) 15:00~15:50<br><b>「細胞シート工学と肝臓再生治療」</b><br>東京女子医科大学 先端生命医学科学研究所 岡野 光夫   |           |         |                         |   |
| 16:00                   | ブレイク   |           |         |                         |   |
| 16:00                   | <b>VI 転移性肝癌に対する治療戦略</b> 15:55~16:35<br>座長：奥田 康司 (久留米大学医学部 外科)  |           |         |                         |   |
| 17:00                   | <b>VII 肝臓一般③</b> 16:35~17:07<br>座長：川下 雄丈 (独立行政法人 労働者健康福祉機構 長崎労災病院 外科)  |           |         |                         |   |
| 18:00                   | <b>VIII 肝切除術の工夫</b> 17:07~18:03<br>座長：別府 透 (熊本大学大学院 消化器外科)<br>江口 晋 (長崎大学大学院 移植・消化器外科)  |           |         |                         |   |
| 18:03                   | 閉会の挨拶 当番世話人 藤岡ひかる (国立病院機構長崎医療センター) 18:03~  |           |         |                         |   |

## プログラム

### I 肝臓一般①

---

9:35~9:59

座長：福岡市民病院 外科 池田 泰治

#### I-01 巨大肝嚢胞腺腫の1例

1) 福岡大学病院 消化器外科、2) 同 病理部

○中川元道<sup>1)</sup>、乗富智明<sup>1)</sup>、山内 靖<sup>1)</sup>、山口良介<sup>1)</sup>、山下裕一<sup>1)</sup>、林 博之<sup>2)</sup>、鍋島一樹<sup>2)</sup>

#### I-02 加療歴のない肉腫様変化を伴った肝細胞癌の1切除例

1) 佐世保市立総合病院、2) 同 病理部

○角田順久<sup>1)</sup>、土肥良一郎<sup>1)</sup>、富永哲郎<sup>1)</sup>、河野陽介<sup>1)</sup>、荒木政人<sup>1)</sup>、阿保貴章<sup>1)</sup>、石川 啓<sup>1)</sup>、岩崎啓介<sup>2)</sup>

#### I-03 多中心性発生再発をきたし再切除を行った NASH 肝癌の1例

佐賀大学医学部 一般・消化器外科

○北川 浩、三好 篤、北原賢二、能城浩和、宮崎耕治

---

9:59~10:31

座長：九州大学大学院 消化器・総合外科 調 憲

#### I-04 胆嚢癌と画像的鑑別を要した肝 sclerosed haemangioma の1切除例

1) 宮崎大学医学部附属病院 第二外科、2) 同 放射線科、3) 同 腫瘍再生病態学分野

○池ノ上実<sup>1,2,3)</sup>、関屋 亮<sup>1)</sup>、河野文彰<sup>1)</sup>、和田俊介<sup>1)</sup>、仙波速見<sup>1)</sup>、水野隆之<sup>1)</sup>、根本 学<sup>1)</sup>、杉村 宏<sup>2)</sup>、片岡寛章<sup>3)</sup>、鬼塚敏男<sup>1)</sup>

#### I-05 胆管腫瘍栓を伴う肝細胞癌の1切除例

佐賀大学医学部 一般・消化器外科

○永松伊織、三好 篤、甲斐敬太、北原賢二、能城浩和、宮崎耕治

#### I-06 肝内結石症を合併した粘液産生胆管腫瘍の1切除例

1) 佐世保中央病院 外科、2) 同 病理

○重政 有<sup>1)</sup>、清水輝久<sup>1)</sup>、稲益英子<sup>1)</sup>、佐々木伸文<sup>1)</sup>、梶原啓司<sup>1)</sup>、碓 秀樹<sup>1)</sup>、國崎忠臣<sup>1)</sup>、米満伸久<sup>2)</sup>

## I-07 肝内結石症に併発した肝内胆管癌症例の検討

長崎県上五島病院

○八坂貴宏、瀧川拓人、桑田絹子、永安忠則

---

10:31～10:55

座長：長崎大学大学院 腫瘍外科 七島 篤志

## I-08 門脈左枝根部まで腫瘍塞栓を認めた大腸癌門脈腫瘍栓の1例

1)福岡青洲会病院 外科、2)同 病理科

○甲 拡子<sup>1)</sup>、上田剛資<sup>1)</sup>、溝上宏明<sup>1)</sup>、久間直哉<sup>1)</sup>、白石守男<sup>1)</sup>、  
八反田洋一<sup>2)</sup>

## I-09 右側下大静脈靱帯部に肝実質が存在する肝細胞癌の一切除例

独立行政法人 労働者健康福祉機構 長崎労災病院 外科

○川下雄丈、岩田 亨、田中貴之、川原大輔

## I-10 血友病 A 患者における肝切除術の経験

大分大学 第一外科

○増田 崇、太田正之、甲斐成一郎、岩下幸雄、平下禎二郎、江口英利、  
小川 聡、北野正剛

---

特別講演 11:00～12:00

司会：宮崎 耕治（佐賀大学医学部 一般・消化器外科）

# 「Anatomical vs. non-anatomical hepatic resection」

長崎大学大学院 移植・消化器外科

兼松 隆之 先生

# 「肝の MRI：最近の話題から」 － 脂肪肝から肝細胞癌まで－

福岡大学医学部 放射線医学教室

吉満 研吾 先生

## II 小肝細胞癌の診断と治療

---

13:05~13:37 座長：国立病院機構 九州医療センター 肝臓病センター 肝胆膵外科 高見 裕子

### II-01 MRI 造影剤 EOB・プリモビストを用いた肝癌診断の検討

福岡市民病院 外科

- 原田 昇、池田泰治、奥山稔朗、川中博文、坂田 敬、川崎勝己、  
江口大彦、合志健一、是永大輔、竹中賢治

### II-02 小肝細胞癌の診断と治療

国立病院機構 九州医療センター 肝臓病センター 肝胆膵外科

- 高見裕子、和田幸之、才津秀樹

### II-03 小肝細胞癌に対する肝切除と局所凝固療法との治療成績

長崎大学大学院 腫瘍外科

- 飛永修一、七島篤志、町野隆介、日高重和、國崎真己、竹下浩明、  
田中研次、澤井照光、安武 亨、永安 武

### II-04 高度硬変肝での微小肝細胞癌の局在と意義

1)長崎大学大学院 移植・消化器外科、2)同 消化器内科

- 日高匡章<sup>1)</sup>、江口 晋<sup>1)</sup>、奥平定之<sup>1)</sup>、宮明寿光<sup>2)</sup>、高槻光寿<sup>1)</sup>、  
山之内孝彰<sup>1)</sup>、田島義証<sup>1)</sup>、市川辰樹<sup>2)</sup>、中尾一彦<sup>2)</sup>、兼松隆之<sup>1)</sup>

### Ⅲ 肝細胞癌治療後再発防止策は？

---

13:37～14:01

座長：佐賀大学医学部 一般・消化器外科 三好 篤

#### Ⅲ-01 肝細胞癌治療切除術後再発予測因子としての mPGES-1 蛋白発現

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 外科

- 田淵 聡、野中孝一、和田桃子、小林慎一郎、田中史朗、大坪竜太、中田哲夫、渡海大隆、遠山啓亮、原口正史、蒲原行雄、前田茂人、永田康浩、辻 博治、藤岡ひかる

#### Ⅲ-02 肝細胞癌治療後再発防止策としての COX-2 阻害剤 (Meloxicam)、polaprezinc 及び Tegafur-uracil の可能性

国立病院機構 九州医療センター 肝臓病センター 肝胆膵外科

- 高見裕子、和田幸之、才津秀樹

#### Ⅲ-03 C 型肝炎陽性肝細胞癌術後にインターフェロン治療を施行し SVR となった 7 例の検討

1) 伸和会 共立病院 外科、2) 同 放射線科

- 赤須郁太郎<sup>1,2)</sup>、椎葉淳一<sup>1)</sup>、清永 勉<sup>1)</sup>、赤須 巖<sup>1)</sup>、高崎二郎<sup>2)</sup>

### Ⅳ 肝臓一般②

---

14:01～14:25

座長：鹿児島大学大学院 腫瘍制御学消化器外科 上野 真一

#### Ⅳ-01 肝細胞癌に対し、生体肝移植を含めた集学的治療により 24 年間の長期生存を得ている 1 例

1) 長崎大学大学院 移植・消化器外科、2) 同 消化器内科、  
3) 佐賀大学医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科

- 原 貴信<sup>1)</sup>、江口 晋<sup>1)</sup>、高槻光寿<sup>1)</sup>、山之内孝彰<sup>1)</sup>、日高匡章<sup>1)</sup>、兼松隆之<sup>1)</sup>、市川辰樹<sup>2)</sup>、中尾一彦<sup>2)</sup>、大座紀子<sup>3)</sup>、水田敏彦<sup>3)</sup>

#### Ⅳ-02 肝細胞癌のラジオ波焼灼後に、自然破裂した腹膜播種の 1 切除例

1) 長崎市立市民病院 外科、2) 同 内科、3) 同 病理科

- 夏田孔史<sup>1)</sup>、小原則博<sup>1)</sup>、北島正親<sup>1)</sup>、北島知夫<sup>1)</sup>、大久保仁<sup>1)</sup>、井上啓爾<sup>1)</sup>、前田潤平<sup>1)</sup>、重野賢也<sup>2)</sup>、堤 卓也<sup>2)</sup>、入江準二<sup>3)</sup>

## IV-03 RFA 治療後に発症した胆管狭窄による閉塞性黄疸症例

1) 共愛会 戸畑共立病院、2) 久留米大学 外科

○野北英史<sup>1,2)</sup>、佐藤英博<sup>1)</sup>、谷脇 智<sup>1)</sup>、高山成吉<sup>1)</sup>、浜田 茂<sup>1)</sup>、  
宗 宏伸<sup>1)</sup>、緒方俊郎<sup>2)</sup>、奥田康司<sup>2)</sup>、今村鉄男<sup>1)</sup>、下河辺智久<sup>1)</sup>

## V 肝硬変合併肝細胞癌に対する脾臓摘出、塞栓治療の功罪

---

14:25～14:49

座長：久留米大学医学部 外科 緒方 俊郎

### V-01 血小板減少を有する肝硬変合併肝細胞癌切除例における脾臓摘出の意義

宮崎大学医学部 腫瘍機能制御外科

○大谷和広、近藤千博、今村直哉、永野元章、旭吉雅秀、大内田次郎、  
甲斐真弘、千々岩一男

### V-02 肝硬変合併肝細胞癌に対する脾摘の功罪

1) 久留米大学医学部 外科、2) 共愛会共立病院 外科

○緒方俊郎<sup>1)</sup>、奥田康司<sup>1)</sup>、佐藤寿洋<sup>1)</sup>、酒井久宗<sup>1)</sup>、塩田浩二<sup>1)</sup>、  
安永昌史<sup>1)</sup>、佐藤英博<sup>2)</sup>、木下寿文<sup>1)</sup>、青柳成明<sup>1)</sup>

### V-03 門脈圧亢進症を伴う肝細胞癌症例に対する脾臓摘出の検討

長崎大学大学院 腫瘍外科

○町野隆介、七島篤志、飛永修一、日高重和、國崎真己、竹下浩明、  
田中研次、澤井照光、安武 亨、永安 武

---

教育講演 15:00～15:50

司会：藤岡ひかる（国立病院機構 長崎医療センター）

## 「細胞シート工学と肝臓再生治療」

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所

岡野 光夫 先生

## VI 転移性肝癌に対する治療戦略

15:55～16:35

座長：久留米大学医学部 外科 奥田 康司

### VI-01 異時性肝転移症例に対する肝切除前 waiting time の評価

鹿児島大学大学院 腫瘍制御学消化器外科

- 南 幸次、上野真一、迫田雅彦、久保文武、樋渡清司、立野太郎、北菌正樹、蔵原 弘、夏越祥次

### VI-02 15年前に切除した脾腫瘍と組織型が一致した転移性肝腫瘍の一例

1) 国立病院機構 佐賀病院 外科、2) 長崎大学 第一病理

- 中島弘治<sup>1)</sup>、今村一步<sup>1)</sup>、山口 泉<sup>1)</sup>、森内博紀<sup>1)</sup>、円城寺昭人<sup>1)</sup>、山口淳三<sup>1)</sup>、林 洋子<sup>2)</sup>

### VI-03 背景肝からみた大腸癌肝転移待機手術のタイミング

1) 久留米大学医学部 外科、2) 久留米大学医療センター 外科、3) 同 病理、4) 久留米大学病院 病理部

- 久下 亨<sup>1)</sup>、堀内彦之<sup>1)</sup>、石川博人<sup>1)</sup>、川原隆一<sup>1)</sup>、内田信治<sup>2)</sup>、緒方 裕<sup>2)</sup>、山口 倫<sup>3)</sup>、鹿毛政義<sup>4)</sup>、木下壽文<sup>1)</sup>、白水和雄<sup>1)</sup>

### VI-04 大腸癌肝転移に対する最近の治療

福岡市民病院 外科

- 池田泰治、原田 昇、川中博文、合志健一、江口大彦、坂田 敬、川崎勝己、奥山稔朗、是永大輔、竹中賢治

### VI-05 当院における大腸癌肝転移切除例の検討(切除法を中心に)

鹿児島厚生連病院 外科

- 浜之上雅博、横枕直哉、青木 大、西島浩雄、前之原茂穂

## VII 肝臓一般③

---

16:35～17:07

座長：独立行政法人 労働者健康福祉機構 長崎労災病院 外科 川下 雄丈

### VII-01 胃粘膜下腫瘍像を呈した肝腫瘤性病変の3例

鹿児島大学大学院 腫瘍制御学消化器外科

- 肥後直倫、上野真一、迫田雅彦、久保文武、林 知実、福島浩平、  
上有貴明、上之園芳一、石神純也、夏越祥次

### VII-02 子宮平滑筋肉腫の肝転移を疑われた臍静脈板内神経鞘腫の一例

熊本大学大学院 消化器外科

- 原田和人、増田稔郎、別府 透、石河隆敏、小森宏之、深見賢作、  
赤星慎一、杉原栄孝、村田飛鳥、馬場秀夫

### VII-03 High-grade dysplastic nodule の一切除例

産業医科大学 消化器・内分泌外科

- 金光秀一、皆川紀剛、鳥越貴行、日暮愛一郎、岡本好司、山口幸二

### VII-04 術前診断に苦慮した多房性嚢胞性肝腫瘍の1例

1)大分赤十字病院 肝胆膵センター 外科部門、2)同 内科部門、3)同 放射線部門、  
4)大分赤十字病院 病理

- 伊藤心二<sup>1)</sup>、福澤謙吾<sup>1)</sup>、岩城堅太郎<sup>1)</sup>、岡本正博<sup>1)</sup>、若杉健三<sup>1)</sup>、  
一木康則<sup>2)</sup>、高木 一<sup>3)</sup>、米増博俊<sup>4)</sup>

## VIII 肝切除術の工夫

---

17:07～18:03

座長：熊本大学大学院 消化器外科 別府 透  
長崎大学大学院 移植・消化器外科 江口 晋

### VIII-01 VIO system を用いた肝切除術

佐賀大学医学部 一般・消化器外科

- 三好 篤、北原賢二、永松伊織、古賀浩木、神谷尚彦、能城浩和、  
宮崎耕治

## VIII-02 低電圧凝固モード型電気メスと生食滴下型凝固デバイスを用いた肝切離の有用性

九州大学大学院 消化器・総合外科

- 萱島寛人、調 憲、武富紹信、副島雄二、内山秀昭、二宮瑞樹、森田和豊、武石一樹、戸島剛男、前原喜彦

## VIII-03 Liver hanging maneuver の各種 modified technique を用いた前方アプローチ肝切除

久留米大学医学部 外科

- 奥田康司、塩田浩二、酒井久宗、緒方俊郎、安永昌史、木下寿文、青柳成明

## VIII-04 進行肝細胞癌に対する IVR 治療後の Downstaging-Resection の意義

久留米大学医学部 外科

- 後藤祐一、奥田康司、酒井久宗、塩田浩二、赤須 玄、緒方俊郎、安永昌史、木下壽文、青柳成明

## VIII-05 肝右3区域切除および門脈肝動脈合併切除を施行した肝門部胆管癌の一例

琉球大学 第一外科

- 野里栄治、白石祐之、新垣淳也、長濱正吉、下地英明、佐村博範、西巻 正

## VIII-06 肝細胞癌の門脈腫瘍栓に対し経肝円索的に腫瘍栓を摘出した一例

1) 飯塚病院 外科、2) 同 消化器外科

- 播本憲史<sup>1)</sup>、調 憲<sup>2)</sup>、梶山 潔<sup>1)</sup>、由茅隆文<sup>1)</sup>、祇園智信<sup>1)</sup>、長家 尚<sup>1)</sup>

## VIII-07 肝細胞癌に対する肝切除術の出血量、MAP 輸血と予後の検討

熊本大学大学院 消化器外科

- 深見賢作、増田稔郎、別府 透、石河隆敏、小森宏之、赤星慎一、杉原栄孝、原田和人、村田飛鳥、馬場秀夫

# 一般演題抄録

---

I 肝臓一般①

II 小肝細胞癌の診断と治療

III 肝細胞癌治療後再発防止策は？

IV 肝臓一般②

V 肝硬変合併肝細胞癌に対する脾臓摘出、  
塞栓療法の功罪

VI 転移性肝癌に対する治療戦略

VII 肝臓一般③

VIII 肝切除術の工夫

## I-01 巨大肝嚢胞腺腫の1例

1) 福岡大学病院 消化器外科、2) 同 病理部

○中川元道<sup>1)</sup>、乗富智明<sup>1)</sup>、山内 靖<sup>1)</sup>、山口良介<sup>1)</sup>、山下裕一<sup>1)</sup>、  
林 博之<sup>2)</sup>、鍋島一樹<sup>2)</sup>

症例は、47歳女性。平成20年9月検診にて肝機能異常を指摘され、近医受診した。腹部USおよびCTを行ったところ、右肝に多房性嚢胞性病変を認めたため、精査加療目的に当院紹介となった。腹部症状はなく、理学所見、血液生化学的検査に異常は認めず、腫瘍マーカーの上昇はなかった。HBs抗原陰性、HCV抗体陰性であった。腹部CT検査では、肝右葉に多数石灰化を伴った多房性の嚢胞性病変を認め、内部に明らかな充実構造はなかった。造影CTでは嚢胞性病変隔壁に造影効果を認めた。MRI検査では、嚢胞性病変内部はT1W1で全体に肝実質よりやや低信号を呈していた。DIC-CT検査では、造影剤の嚢胞性病変内部への貯留は認めなかった。エキノコッカスも疑われたが、RT-PCR検査にて抗体陰性であった。諸検査にて肝嚢胞性腫瘍が考えられ、肝右3区域切除術を施行した。切除後の病変部所見では、腫瘤は被膜を有す径10cmの類円形病変で、多数の石灰化を有し線維性隔壁を認めた。内容物は軽度混濁のある茶褐色漿液、壁内部には明らかな隆起性病変は認めなかった。病理組織所見では、嚢胞壁は細胞異型の乏しい円形の上皮細胞にて被覆されていた。ごく一部に細胞異型を伴っていたため、異型を伴う胆管嚢胞腺腫と診断された。肝嚢胞腺腫は、肝嚢胞性疾患のわずか5%と比較的稀な疾患であり、若干の考察を加えて報告する。

## I-02 加療歴のない肉腫様変化を伴った 肝細胞癌の1切除例

1) 佐世保市立総合病院、2) 同 病理部

○角田順久<sup>1)</sup>、土肥良一郎<sup>1)</sup>、富永哲郎<sup>1)</sup>、河野陽介<sup>1)</sup>、荒木政人<sup>1)</sup>、  
阿保貴章<sup>1)</sup>、石川 啓<sup>1)</sup>、岩崎啓介<sup>2)</sup>

**【はじめに】** 肉腫様変化を伴う HCC は稀である。また、肝細胞癌に対する前治療法が肉腫様変化の原因の一つと考えられている。今回我々は加療歴のない HCC の肉腫様変化を来した1切除例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

**【症例】** 61歳、男性。

**【現病歴】** 2009年1月、左季肋部痛、発熱を主訴に近医受診。触診上左季肋部に腫瘤触知され精査施行したところ、腹部造影 CT にて肝左外側領域に径11cmの一部壊死を伴う腫瘤を認めた。また、胸部 CT にても転移性肺腫瘍を疑われた。AFP および PIVKA-II の上昇もあり HCC の診断となり、加療目的にて当科紹介となった。検査所見では、ウィルスマーカーは HBV 既感染、HCV 陰性であった。手術直前の腹部 CT では径18×11cmまで腫瘤は増大傾向を示し、圧迫症状出現のため2009年2月に肝左葉切除 + 胃部分切除施行した。病理結果は Hepatocellular carcinoma, poorly differentiated with pseudosarcomatous lesion であった。術後経過は順調で術後21日目に退院となったが、3月末に再診時高度貧血認めため再入院。精査の結果左上腹部中心に後腹膜再発を認め一部は胃壁内に腫瘤形成し消化管出血していた。このため、2回目の手術として腫瘍摘出 + 胃部分切除 + 横行結腸切除施行した。現在術後再々発来し経過観察中である。

## I-03 多中心性発生再発をきたし再切除を行った NASH 肝癌の1例

---

佐賀大学医学部 一般・消化器外科

○北川 浩、三好 篤、北原賢二、能城浩和、宮崎耕治

---

非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) 関連肝細胞癌症例は近年増加し注目されているがその臨床的特徴は明らかにされていない。今回、NASH 関連肝癌術後に多中心性再発をきたし再肝切除を行った症例を経験したので報告する。症例は70歳女性。2008年9月に後区域の4cmの肝腫瘍に対して肝後区域、背側前区域切除を施行。病理診断の結果、低分化型肝細胞癌、単結節周囲増殖型、vp1, vvo im1, T4 N0 M0 stage IVA と診断。背景肝は大滴性脂肪沈着、肝細胞の ballooning、中心静脈周囲線維化を認めた。B型、C型肝炎陰性で、アルコール摂取歴がなく、Brunt 分類の grade1, stgae1 の NASH と診断された。2009年3月のCTで血管腫としてフォローしていた肝S3の病変が2cmに増大し、MRI, CTA/CTAP での精査の結果、肝細胞癌の再発が疑われS3部分切除を施行した。病理診断の結果、高分化型肝細胞癌と診断され、多中心性発生再発と考えられた。本症例は初回から再手術までにBMIが25.6から20.6に低下しており、それに伴い背景肝の脂肪沈着は著明に減少し、ballooning も認められなかった。NASH 関連肝癌の再発形式に関して明らかにされていない。今回、多中心性発生再発を来たし、さらに体重減少に伴い背景肝の脂肪沈着が改善した症例を経験した。自験例および文献的考察を含め報告する。

## 第31回九州肝臓外科研究会

---

発行者：藤岡ひかる

発行日：2009年7月10日

発行所：第31回九州肝臓外科研究会事務局  
独立行政法人 国立病院機構  
長崎医療センター 臨床研究センター  
〒856-8562 長崎県大村市久原2丁目1001-1  
TEL:0957-52-3121 FAX:0957-53-6675

制 作： 株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL:096-382-7793 FAX:096-386-2025